

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500212
法人名	新居浜医療福祉生活協同組合
事業所名	あったかほむ たかつ
所在地	新居浜市高津町3番20号
自己評価作成日	平成27年12月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年1月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自立支援をモットーに手を出し過ぎない介護を心掛けている。  
 重度化に伴い、看護、介護も大変になっているが、心身共に日々元気になってきている様子も伺える。  
 早期受診を心がけ、医療との連携を密にしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

手をさすったり、握ったり、肩にそっとふれる等、スキンシップをしながらお話を聴くことに取り組んでいる。みなが集う居間では、お話をあまりしない方には、居室でゆっくりお話を聴くように取り組んでいる。  
 利用者やご家族の希望を採り入れて、担当者会議で「自立支援」「口腔ケアと運動」「栄養面を考えてケアにあたる」ことを重視して検討を行い、介護計画を作成している。担当職員が6ヶ月毎にモニタリングを行っており、様式は昨年研修会で習ったことを参考に、×で評価する形式に変更している。  
 各ユニットに、食事作り専門の職員を配置して食事を作っている。食材は、近所の専門店から新鮮な魚や肉を配達してもらっている。調査訪問日は、利用者のリクエストのちらし寿司で、普段はおかゆを食べる方も、「おいしい、おいしい」と言って食べていた。利用者の誕生日には、希望のメニューでお祝いしている。油物が苦手な方には、煮物や玉子豆腐に代替えて支援している。現在、利用者の重度化に伴い、利用者が食事一連の流れの中できかわることは少ないようだ。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) 1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) 1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) 1. 毎日ある 2. <b>数日に1回程度ある</b> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) 1. ほぼ毎日のように 2. <b>数日に1回程度</b> 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) 1. <b>大いに増えている</b> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) 1. ほぼ全ての職員が 2. <b>職員の2/3くらいが</b> 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. <b>家族等の2/3くらいが</b> 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28) 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 あったかほーむ たかつ

(ユニット名) 1階・2階

記入者(管理者)

氏名 伊藤 道子

評価完了日 平成27年 12月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)  職員全員で作り上げた理念を玄関入口に掲示している。 全員で共有し、実践を心掛けている。	
			(外部評価)  2年前に職員で話し合いつくった「感謝の心を大切にいつも 笑顔 真心こめて和やかな暮らしが出来るように支援します」 という理念を玄関に掲示している。管理者は、理念につい て、「おだやかな暮らしができると笑顔も増え、良い居場所にな る」と職員に話している。3ヶ月毎目標をたてて、職員会議 時に目標の反省と次の目標を決めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)  地域の一員として日常的に交流は出来ていないが、自宅で 取れた野菜を届けてくれたり、頂き物があり、交流が増えて いる。 10/16の太鼓祭りの時は近所の方も来られ、一緒に駐車場 で太鼓台見物したり、交流が増えてきている。	
			(外部評価)  1階の地域交流室を「縁がわ」と名付けており、看板には、 「誰でも利用できる」ことを明記している。縁がわでは、担当 職員によるランチ提供の日を週に3日設けており、地域の方 は、利用時にお手玉したり、歌ったりして利用者とふれ合っ ている。事業所前が幼稚園バスの送迎場所になっており、親 子との交流もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)  運営推進会議で地域の認知症で困っている方の話になり、 参加者皆で話し合う事もある。お互いに意見交換し、理解や 支援に繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			地域に係る議題を取り上げたり、参加しやすいよう配慮している。 事業所や入居者の現況報告を行い、話し合うことで、より良い支援が行えるよう努めている。	
			(外部評価)	
			会議は、平日の昼間に開催している。ご家族にも案内するが、仕事の都合等もあって参加は少ない。会議時には、事業所の状況報告を行ったり、防火避難訓練や外部講師による勉強会を併せて行っている。	ご家族に会議の意義や目的等を説明して、協力を働きかける等、さらなる地域のネットワーク作りに会議を活かしてほしい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会議に参加してもらい、意見交換を行っている。不安や疑問がある時は訪問や電話をし、よい協力関係を築けるように取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			運営推進会議では、市の担当者も一緒に勉強している。又、マイナンバー制度や災害時の備蓄等についてのアドバイスがある。市社協からの依頼で、夏休みには中学生・高校生のワークキャンプを受け入れている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			当事業所では身体拘束はしない事に徹底している。身体拘束の研修会に参加し、参加できていない職員を含め報告を行い、全員で話し合っている。	
			(外部評価)	
			身体拘束についての勉強会を行い、職員は拘束をしないケアに取り組んでいる。調査訪問時、玄関は自由に出入りできる状態であった。ベッドから転落したことがある利用者には、夜間のみベッドわきにたたみを敷き、マットを置いて対応している。居室の窓から外へ出ようとして危険がある方には、夜間のみ掃出し窓が全開できないように、敷居に木材をはめ全開にならないようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、報告書を提出している。 また職員会や何か気がついた時は、話し合いを持ち、一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、資料を配布している。 職員全員で学ぶ機会を持ち、活用できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用開始前に文書を作成し、一人ひとりに説明を行い、確認している。 急を要する入居者にはキーパーソンと密に連絡を取り、理解と納得を得るように配慮している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方の来所が増え、行事やイベント等と一緒に参加してくれている。 来所時に入居者・家族・職員と一緒に過ごす事で、意見や要望を聞く機会が増えている。	
			(外部評価) 利用者個々の担当職員が1ヶ月の利用者の近況を手紙にして写真を添え、ご家族に送っている。又、ご家族の来訪時には、記録を見せながら普段の様子を報告して意見や要望を聞いている。遠方に住むご家族には、管理者が電話で報告している。昨年は、法人内4グループホーム合同で勉強会を実施し、ご家族にも案内した。又、敬老会や来月予定の映画鑑賞会もご家族を誘っている。毎日仕事帰りに立ち寄ってくれるご家族や、地域の祭りに利用者用にはっぴを用意してくれるご家族もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回本部職員も参加し、職員の意見交換会を実施し、不安や疑問に思っている事を話し合っている。また、問題が起こった時は臨時に会を開き、全員参加で話し合いを行っている。	
			(外部評価) 月1回、職員の意見交換会を行っている。又、おむつのあて方やサイズ、衣類の交換等、必要時はその都度話し合い、ノートに記入して申し送りの徹底を図っている。月1回の法人内グループホーム会では、感染症対策についての意見交換や外出先の情報交換を行っている。年4回発行していた事業所たよりは、職員の退職等の都合で昨秋から休止しているが、近々再開する予定である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 働きやすい職場にする為、職場環境や条件の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会の案内を回覧し、職員が研修会に参加できるようにしている。また、医療福祉生協全体での研修発表会に参加し、発表を行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービスの研修に参加したり、他事業所のイベントや運営推進会議に参加し、交流する機会を持ち、学びを得ている。福祉生協内のGH会を月1回行い、意見交換し、質の向上に努めている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が一日も早く馴染みの場所になれる様、要望等に耳を傾け、不安を取り除けるよう努めている。馴染みの家具、写真等持たれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族の要望などに耳を傾け、不安を取り除けるよう信頼関係に努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族の要望を聞き入れ、職員全員が情報共有し、ケアプランを作成している。 診療所でのリハビリも利用して頂き、良い支援が出来るよう努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者と職員で昔話や楽しかった事を話し合い、共有し関係作りに努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族と一緒に外出や外食等したり、一緒に過ごす時間を持つ様に支援している。 事業所のイベントでは家族も参加し、一緒に楽しんで頂ける様に努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者が今まで住んでいた近所の方や趣味の友人など来所されている。 また、家族も来所され、良い関係が途切れないよう支援を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>携帯電話でご家族と電話する方がいる。系列デイサービスやリハビリに行くと、知り合いに会うようなこともある。以前に住んでいた島に行ってみたいという方には、写真を見せて、現在は人が住むことができないことを説明した。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 昔話などをして楽しく過ごされている。歌やゲーム・ラジオ体操等行って、入居者同士が関わりを持っている。外出先で一緒にお花を見たりなど、良い関係作りが出来ている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても気軽に立ち寄り、地域交流室の縁がわのランチやカフェを利用されている。いつでも来所出来る、明るく楽しい事業所作りを努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの情報を集め、本人の希望も聞きながら、安心して生活出来る様に努めている。	
			(外部評価) 手をさすったり、握ったり、肩にそっとふれる等、スキンシップをしながらお話を聴くことに取り組んでいる。みなが集う居間では、お話をあまりしない方には、居室でゆっくりお話を聴くように取り組んでいる。入浴時に思い出話をする方もいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の来所時には、入居者の馴染みのものを聞き、出来る限り取り入れ、安心して生活出来る様に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できるだけ出来る事は積極的に手伝ってもらい、自信が持てる様に支援している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>モニタリングを行い、職員の意見を取り入れ、家族の希望を聞き、一人ひとりが自分らしく暮らせるように計画を見直しながら、介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者やご家族の希望を採り入れて、担当者会議で「自立支援」「口腔ケアと運動」「栄養面を考えてケアにあたる」ことを重視して検討を行い、介護計画を作成している。担当職員が6ヶ月毎にモニタリングを行っており、様式は昨年研修会で習ったことを参考に、×で評価する形式に変更している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員同士、気づきを共有しながら話し合いを行い、意見交換を行い、介護計画の見直しに役立っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者に希望や要望がある時は、できる事はすぐに対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的にボランティアの方に慰問を依頼している。歌や踊り、三味線、大正琴、お手玉等を一緒に楽しんでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	入所時よりの、かかりつけ主治医を継続している。受診は家族、看護師で行い、時には往診も利用している。適切な医療を受けられるよう支援している。	
			(外部評価)		
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	入居者の体調管理・バイタルチェックを行い、異変に気づいた時は看護師や責任者に連絡して、適切な受診を行っている。	
			(外部評価)		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	入院となった時には、医療機関に情報提供を行い、安心して入院出来る様に努めている。退院時は情報を受け、主治医や医療機関との関係作りに努めている。	
			(外部評価)		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	重度化した時は、家族、責任者、看護師が話し合い、主治医の意見を取り入れ、本人・家族の意見に沿った終末期が迎えられるよう支援に努めている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時に備えて、定期的に話し合いを持ち、内部研修を行い、落ち着いて対応出来る様にしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防訓練を行っている。 訓練には、地域の方にも参加してもらい、地域と協力して災害対策を検討している。	
			(外部評価) 年2回、避難訓練を実施している。運営推進会議時に避難訓練を実施した際には、消防署、地域の方、設備会社の方が参加した。職員は、日頃からコンセントの埃に気を付ける等、火を出さないことにも取り組んでいる。又、2階ユニット利用者が歩行が困難な方や体格が大きい方は、避難に時間を要することもあり、1階ユニットに移動してもらった。運営推進会議時に、消防署の方に「災害について」講話してもらい、身を守るための注意点等を勉強した。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 目の高さを同じにし、笑顔で顔を見て、一人ひとりの人格を尊重した呼び方や声掛けをし、プライバシーを損なわない様に入居者が笑顔で安心して毎日常生活出来る様に努めている。	
			(外部評価) 法人内の接遇研修や、職員間で接遇について話し合う時間を設けている。手袋、ネックレス、マフラー、帽子等を着けることが好きな方は、調査訪問時にも好みのものを付けて過ごしていた。 居室の排泄用品の収納方法や排泄支援について、配慮が必要と感じるようなところもあるため、定期的に点検や確認するような仕組みを作ってはどうか。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々入居者に声掛け、色々話をする中で、今の思いや希望を安心して伝えてもらえるよう、寄り添い、傾聴する時間を持つよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)  会話の中にヒントを見つけ、少しでも自分のペースで生活出 来る様に支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)  毎日起床時には髪を整え、口腔ケア、ヒゲ剃りを行って いる。 自分で服装を決めれる方は自分で行き、出来ない方は職員 がその人に合った服装を選んでいる。 定期的に散髪や爪切りを行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  個々の好みや苦手な食材を把握し、時折入居者の希望を 取り入れ、献立を考えている。 その時の季節感や旬の食材を使い、食べる楽しみが持てる ように努めている。	
			(外部評価)  各ユニットに、食事作り専門の職員を配置して食事を作っ ている。食材は、近所の専門店から新鮮な魚や肉を配達して もらっている。調査訪問日は、利用者のリクエストのちらし寿 司で、普段はおかゆを食べる方も、「おいしい、おいしい」と 言って食べていた。利用者の誕生日には、希望のメニュー でお祝いしている。油物が苦手な方には、煮物や玉子豆腐 に代替えて支援している。現在、利用者の重度化に伴い、 利用者が食事一連の流れの中でかかわることは少ないよう だ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)  食事量・水分量に気をつけ、体調に合わせて食事量を調整 している。 飲み込みの悪い人はおかゆにしたり、小さく切ったりロミを つけ対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)  食事した後は必ず口腔ケアを行い、いつも清潔にし、おいし く食べられるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の失敗を少なくする為、毎日尿と便のチェックを行っている。 失敗された時は入浴かシャワー浴を心がけ、常に清潔にするよう努めている。	
			(外部評価) トイレの扉は緑色にしており、色でトイレとわかるようにしている。トイレ誘導して介助が必要な利用者については、出来る場所ではご自分で行えるよう、職員は待つようにしている。リハビリに取り組むことで、立つことができるようになり、トイレでの排泄が楽になった利用者がいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量を記入し、どれ位摂取できているかチェックしている。散歩に出かけたり、室内でもラジオ体操や歩行練習を行っている。 車椅子の方にも声掛けし、運動を行っている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) リフト付きシャワーキャリーを導入し、立位のない入居者も安心して湯船に入り、温まって頂き、入浴を楽しんでもらえる様に支援している。	
			(外部評価) 2日に1回、午前中が入浴時間になっている。1階ユニットは、リフト付きシャワーキャリーがあり、2階ユニットの利用者も必要時に利用して湯船で温まれるよう支援している。利用者は「ゆっくり浸かれていい」と喜んでいるようだ。好みのシャンプーを用意している方や長湯の希望等にも沿って支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安眠できるよう、室温、照明、湿度の調整を行っている。 眠れない時にはホットミルクなど温かい飲み物を飲んで頂き、リビングで過ごして、リラックスし眠れる様に支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの病状を把握しながら、薬の確認を行っている。薬の変更時や増えたときは、職員間で申し送りし、服薬間違いのないよう注意し、確認を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の好みそうな役割や手伝いをお願いしている。音楽を聞いたり、歌を歌ったり、毎日楽しく過ごせるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調や気分に合わせ、散歩しながら花や草木を見て、気分転換したり、ドライブに行ったりしている。家族との外出も楽しみされている。	
			(外部評価) 敷地内の散歩や近所のコンビニにおやつを買いに行ったりしている。おやつを持参して、季節の花を見にドライブに出かけることもある。利用者の中には「うどんを食べに行きたい」「買い物に行きたい」と希望する方もある。	利用者が行ってみたいところに出かけられるような支援に、工夫を重ねてほしい。地域の方、ボランティアの方等の協力は得られないだろうか。職員は「気候がよい時期はもっと外出したい」と話していた。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物に出かけた時は、自分の欲しい物があれば職員と一緒にレジに行き、支払いを行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個人の携帯電話を持っている方は家族と連絡を取り合っている。持っていない方は、本人の申し出があれば事業所の電話を使用したり、かかってきたらお話しされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所からの匂いや音も居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。リビングには季節の花を飾ったり、季節を感じてもらえるよう掲示物を変えている。 10月には太鼓祭りのCDを流し、ハッピーを飾ったり、季節の行事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
			(外部評価) 玄関や食堂には、習字で書いた「謹賀新年」や門松の塗り絵、正月用の造花を飾っていた。食堂のガラス面には、前日に行われた誕生会の飾りが飾ってあった。台所はオープンキッチンになっており、食事準備の音やにおいを感じられる。観葉植物が置かれた中庭は吹き抜けになっており、2階からも眺められる。午後、居間からは職員と一緒に歌っている歌声が聞こえてきた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングで過ごされる事が多く、自由に動いて、ゲームをしたり、テーブルを囲んで歌本を見ながら職員と一緒に歌って楽しまれている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで愛用していた家具を持って来られ、本人を交えて一緒に配置を考え、過ごしやすいよう工夫している。	
			(外部評価) 各部屋には洗面台や電動式ベッドが備え付けてある。利用者が居室不在時には換気をしている。職員がエアコンで室温を管理している。テレビを持ち込んでいるところもある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者が自分のペースで軽い運動を行える様な環境づくりに努めている。 入居者が出来ることを職員と一緒にに行い、安心安全の環境の中で自立した生活が送れるよう支援している。	
			(外部評価)	